

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（6月27日-7月3日）の新規陽性者数は10,253人（先々週9,065人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.07 [最小値0.46-最大値1.37]、このうち那覇市は那覇 1.10 [0.54-1.57]でした。また、宮古は1.40 [0.44-2.17]、八重山は1.31 [0.36-2.37]でした（図1）。全県的に陽性者数が増加しています。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部667人（先々週689人）、中部3,491人（先々週3,272人）、那覇市2,119人（先々週1,787人）、南部3,011人（先々週2,728人）、宮古348人（先々週203人）、八重山564人（先々週366人）でした。

八重山は過去最大の流行となっており、20歳未満が224人（39%）となっていますが、70歳以上も32人（5%）と増えています。市町村別では、石垣市472人のほか、竹富町90人と小規模離島において集団感染が発生しています。

県外からの渡航者は47人（先々週39人）とこちらも増加してきています。最多の渡航元は東京都の9人で、福岡県6人、神奈川県6人と続き、14都道府県に渡ります。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10代1,852人（18%）と最多であり、10歳未満1,813人（18%）、40代1,582人（15%）と続きます（図3）。推移をみると、すべての年代で増加傾向であり（図4）、とくに20代と70代の女性、50代と60代の男性における増加が顕著です（図5）。

入院患者数推移

先週の新規入院患者数は154人（先々週214人）でした。ただし、週末に大規模な通信障害が発生した関係で、各医療機関からHER-SYSへの入力に滞っている可能性があります。入院患者数は先週末時点で329人（6月26日時点302人）と増加し始めています。ただし、このうち酸素投与など中等症患者は140人（6月26日時点152人）と減少しています。気管挿管など重症患者は2人（6月26日時点3人）でした（図6）。

なお、先週末（6月26日時点）における確保病床の病床占有率は、北部72%（48/67）、中部40%（66/167）、南部51%（99/193）、那覇56%（53/94）、宮古5%（3/66）、八重山20%（9/44）となっています。南部と那覇、そして八重山で病床占有率が急速に増加しています。なお、重点医療機関の確保病床以外に入院されている51人については除いて計算しています（図7）。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で32施設245人（6月26日時点228人）と増加しています（図8）。

ゲノム解析

先週に県内で収集された230検体について変異

株スクリーニングを行ったところ、オミクロン株の派生型「BA.4」または「BA.5」が疑われる L452R 陽性を 42 検体 (18.3%) で確認しました。先々週の 6.1% から急速に増加しています。

地域別では、北部 0/2 検体 (0%)、中部 20/91

検体 (22%)、南部 7/58 検体 (12%)、那覇 3/20 検体 (15%)、宮古 5/22 検体 (23%)、八重山 2/16 検体 (13%)、那覇空港 5/21 検体 (24%) でした。全県的に BA.5 への置き換わりが進行しています。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、全県的に感染が拡大しており、とりわけ宮古と八重山において急速です。これらの地域は、3 回目のワクチン接種が比較的早期に始められていたことから、その効果が減弱してきている可能性があります。3 回目接種から 5 か月が経過した時点で、重症化リスクのある方々は、4 回目の接種について検討いただければと思います (図 9)。

また、県内では、子どもを中心としていた流行から、徐々に壮年層へと移行しつつあります。このため那覇市を含む南部地域では、医療ひっ迫の目安としているコロナ病床占有率 60% へと迫りつつあります。今月は、4 日の独立記念日、10 日の参議院選挙、18 日の海の日を含む 3 連休とイベントが重なることから、さらに流行が加速していくことが考えられます。

救急受け入れをしている重点医療機関におけるコロナ以外の病床については、すでに全県的にひっ迫状態になっており、宮古を除いて 90% を超えています。6 月以降は、県内における救急搬送件数が増加してきており、コロナ以外の要因も重なって救急医療が維持できない状態となりつつあります (図 10)。

今週の新規陽性者数は 10,000-14,000 人となり、今週末までに入院患者数は 380-430 人に至ると見込まれます (図 11)。市中における BA.5 への置き換わりによっては、さらに急速に拡大する可能性があります。かなり厳しい状況へと向かっています。

これ以上の規模で流行が続けば、持ちこたえられなくなり、昨年 8 月のように入院できない患者

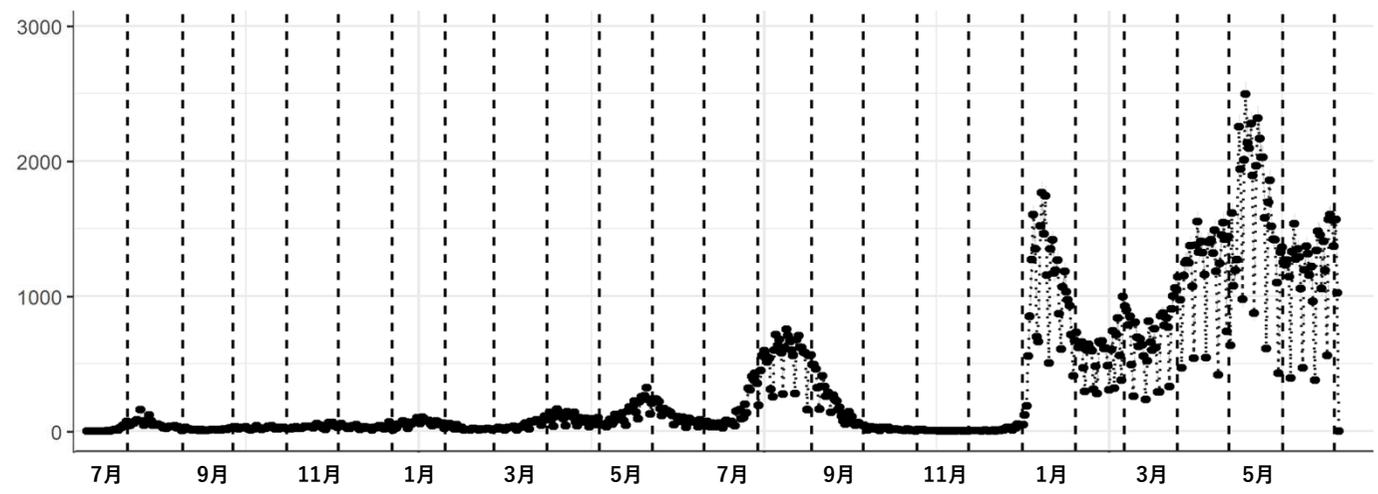
が増加してくる可能性もあります (医療崩壊)。県内で開催するイベントでは、主催者と参加者それぞれに感染予防について確認いただければと思います。とくに人が集まる場所の換気は徹底してください。打ち上げ、祝勝会など、多人数での宴会は控えてください。

今後、県内の流行は、感染力をさらに増したとされるオミクロン株の派生型である「BA.5」へと置き換わっていきます。ただし、BA.5 であっても、基本的な感染対策が有効です。すなわち、人が集まる場所では、マスクを着用してください。友人の部屋など、狭い空間に長時間にわたり密集しないでください。発熱などの症状を認めるとき、仕事や学校を休み、外出を自粛することは極めて重要です。発症から 7 日間は念のため重症化リスクの高い人に会わないようにしましょう。そして、重症化リスクのある方は、ワクチン接種を最新の状態としてください。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数 (北部、中部、南部)

陽性者数 (確定日)
日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数
直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

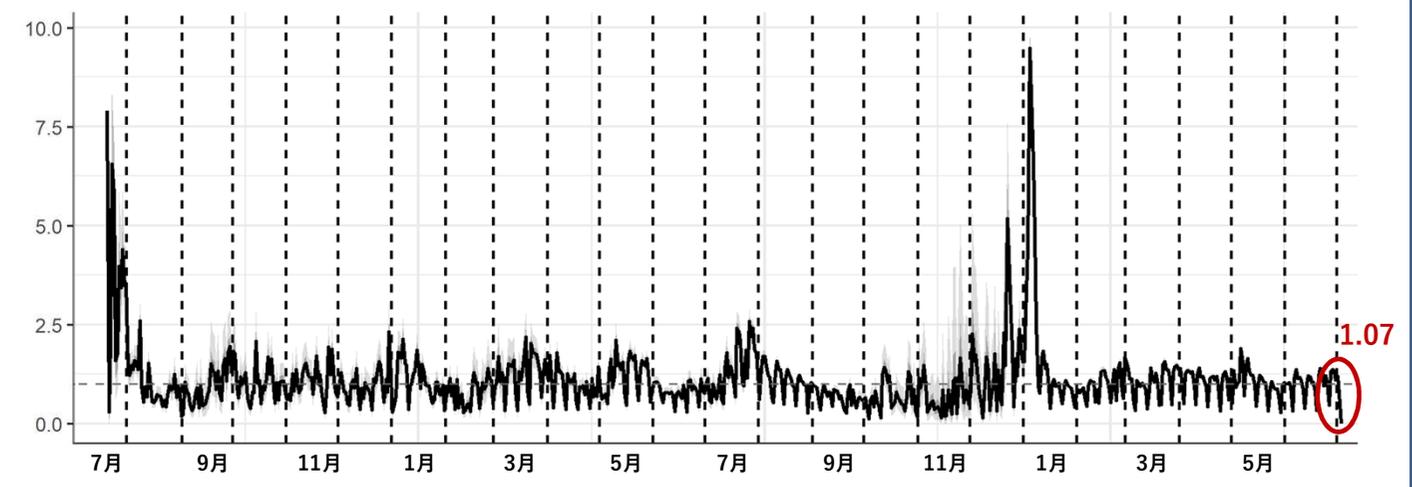


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

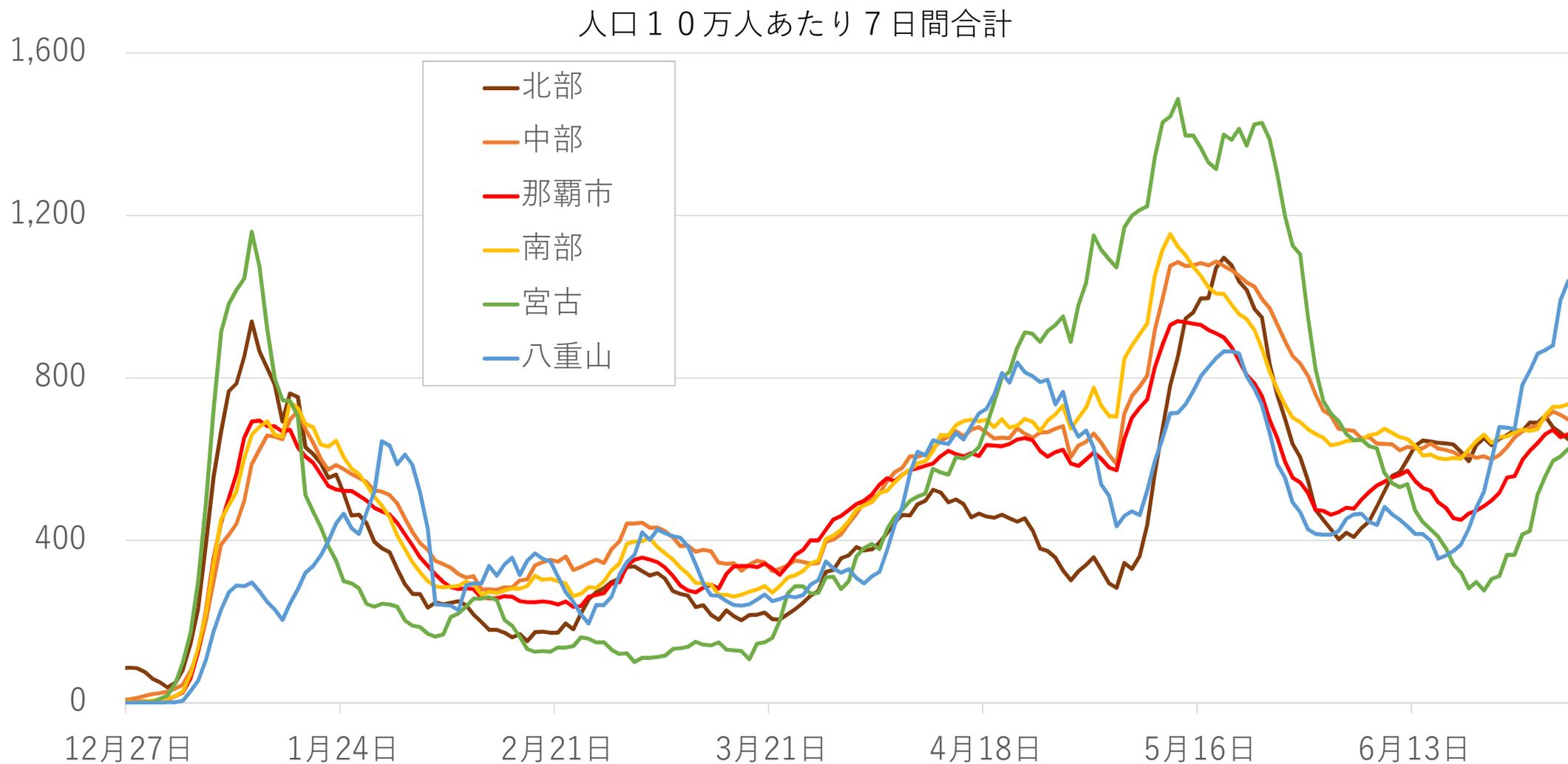


図3 性年齢階級別に見る陽性者数 (6月27日~7月3日)

n = 10,234 (不明・確認中の18人を除く)

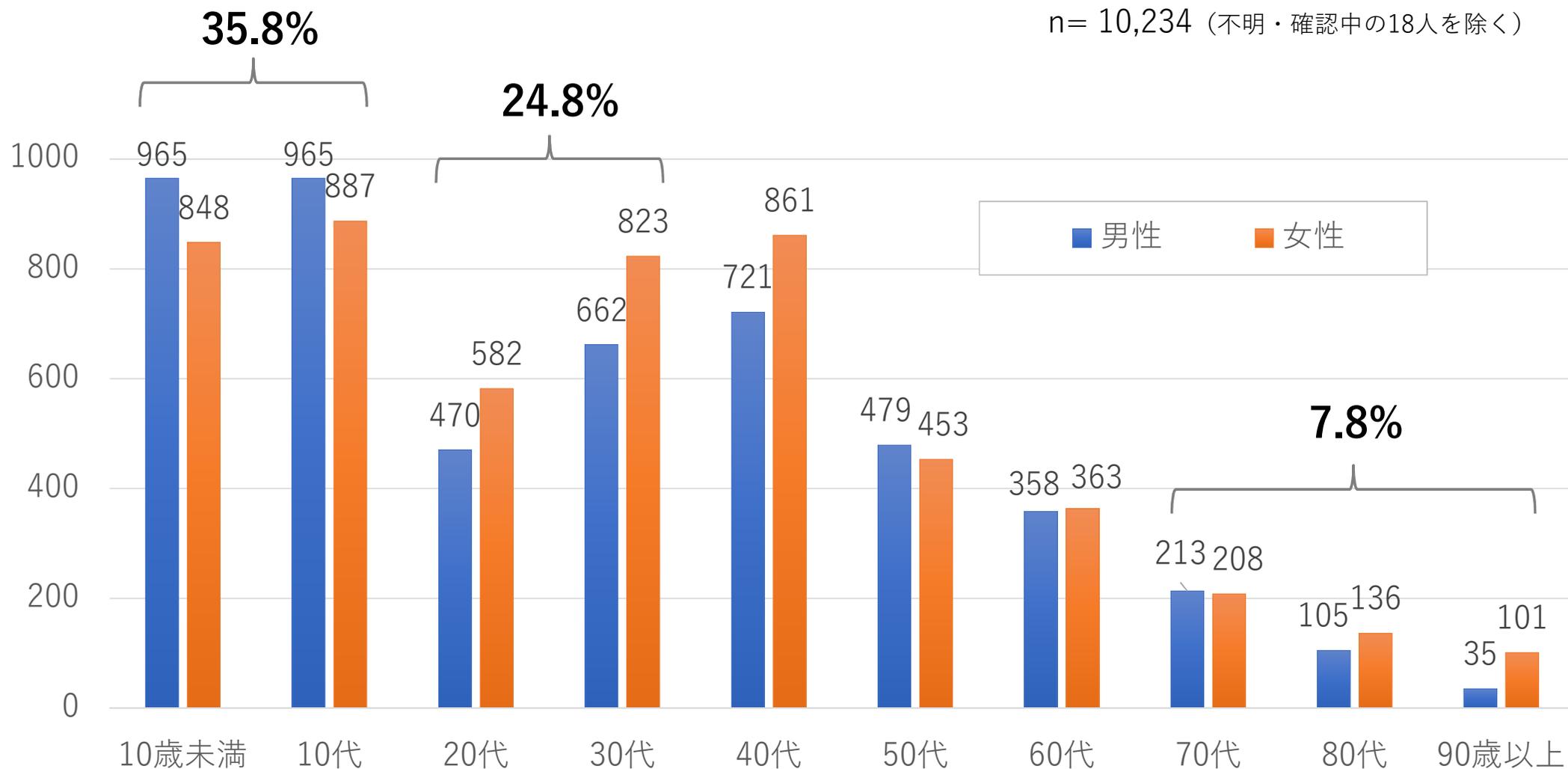


図4 年齢階級別に見る新規陽性者数の推移 (人口10万人あたり7日間合計)

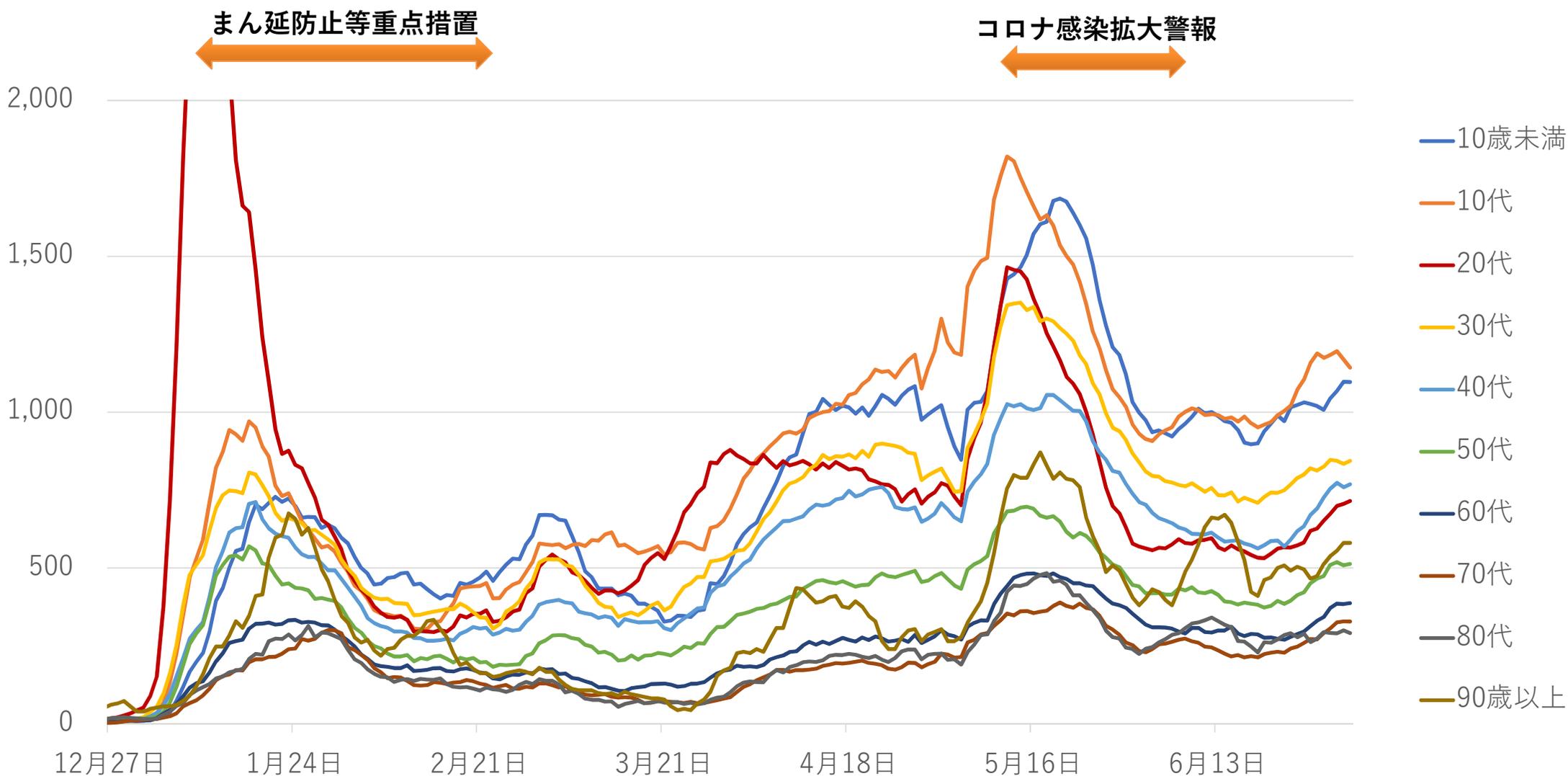


図5 性年齢階級別に見る陽性者数の増減率

増減率 = 6月27日-7月3日 / 6月20日-26日

20代女性で増加

壮年男性で増加

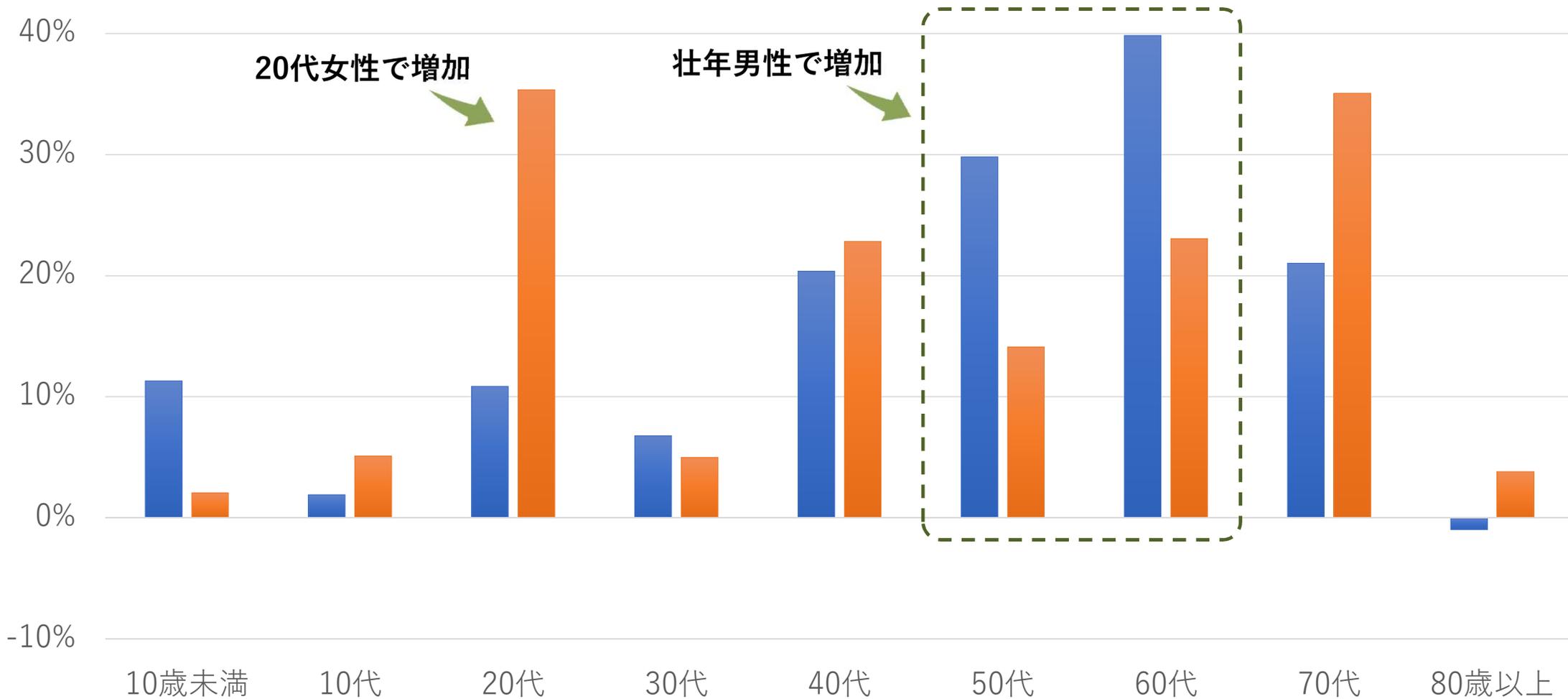


図6 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移

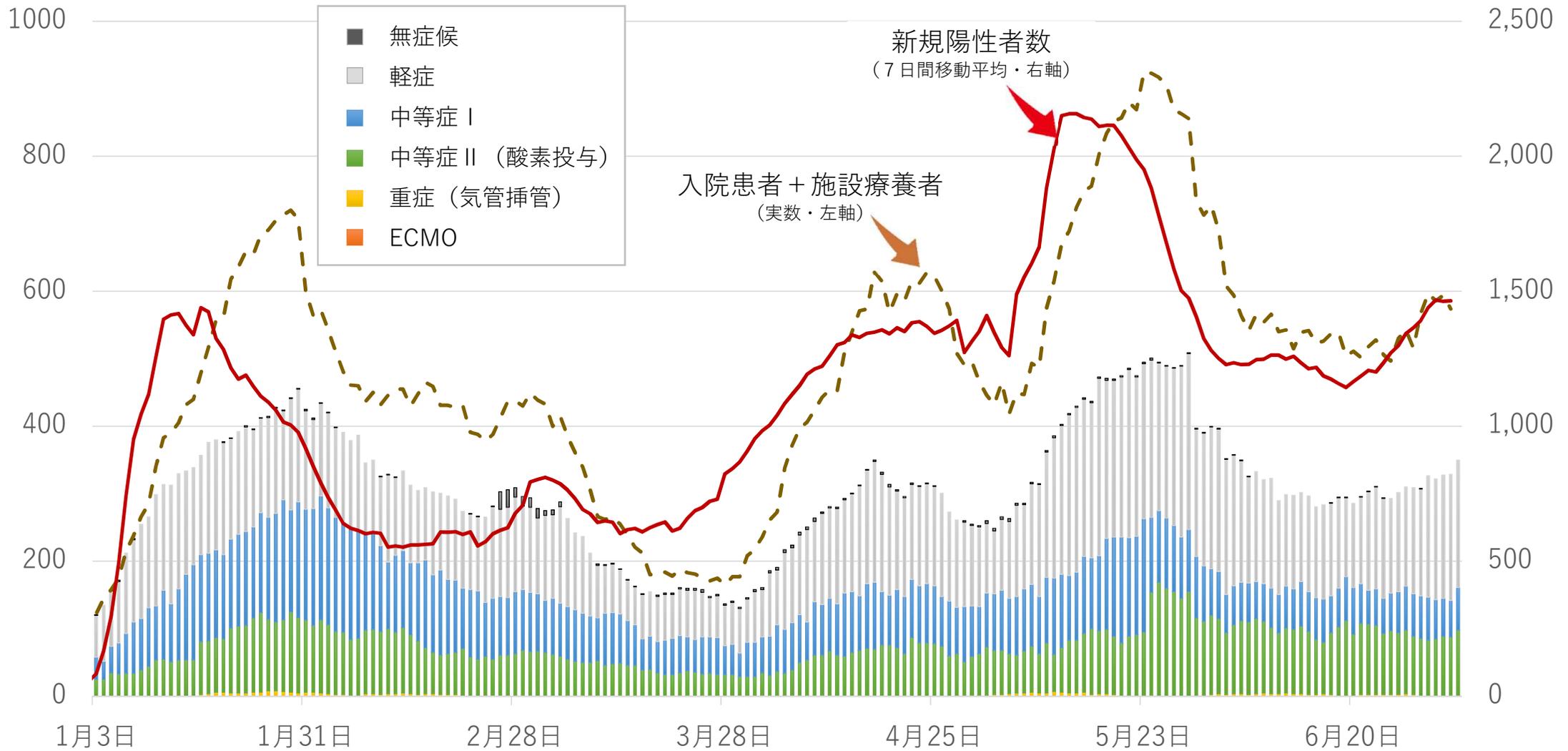
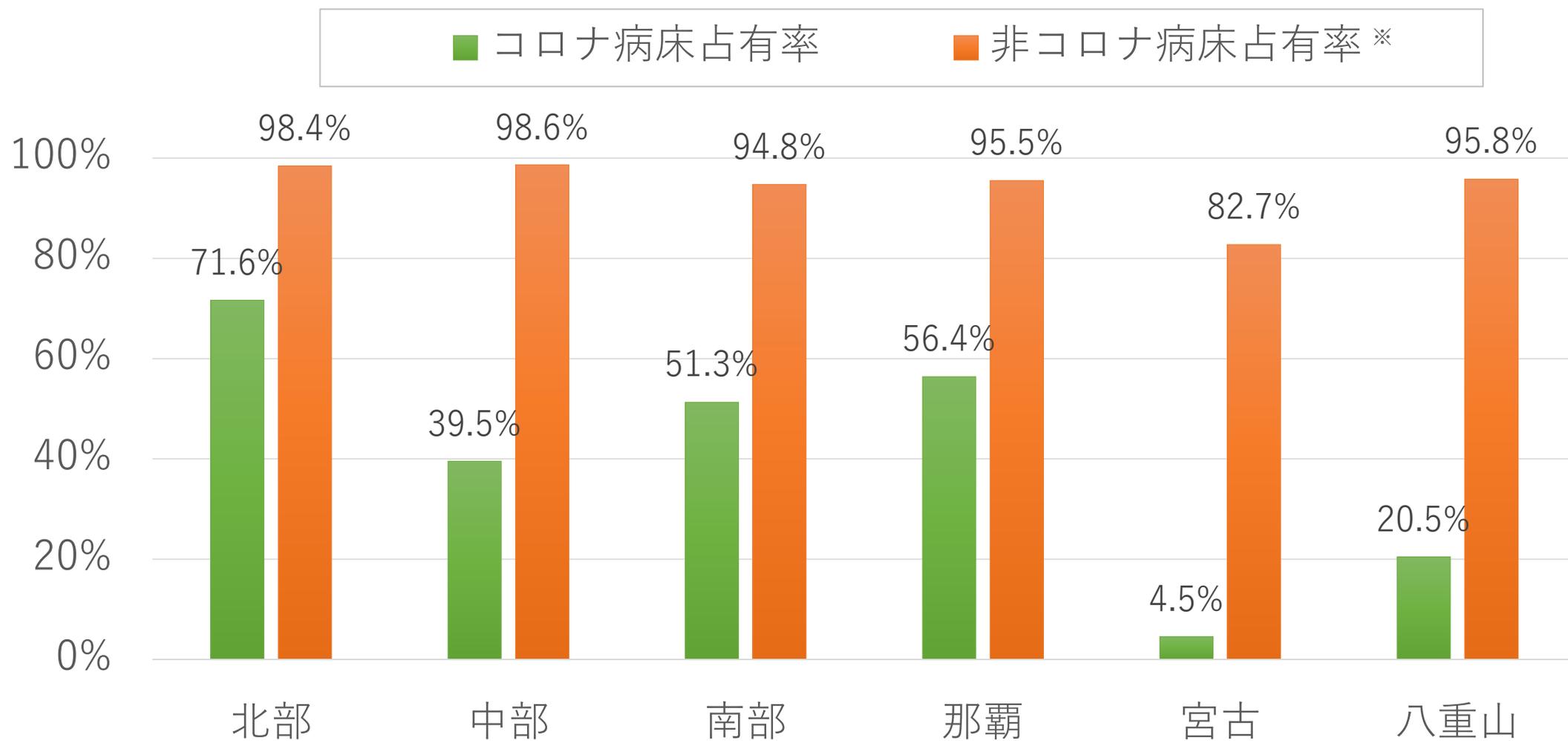


図7 重点医療機関における病床占有率（7月3日現在）



※ 救急受け入れをしている県内重点医療機関 16病院について集計

図 8 社会福祉施設における施設内療養者数

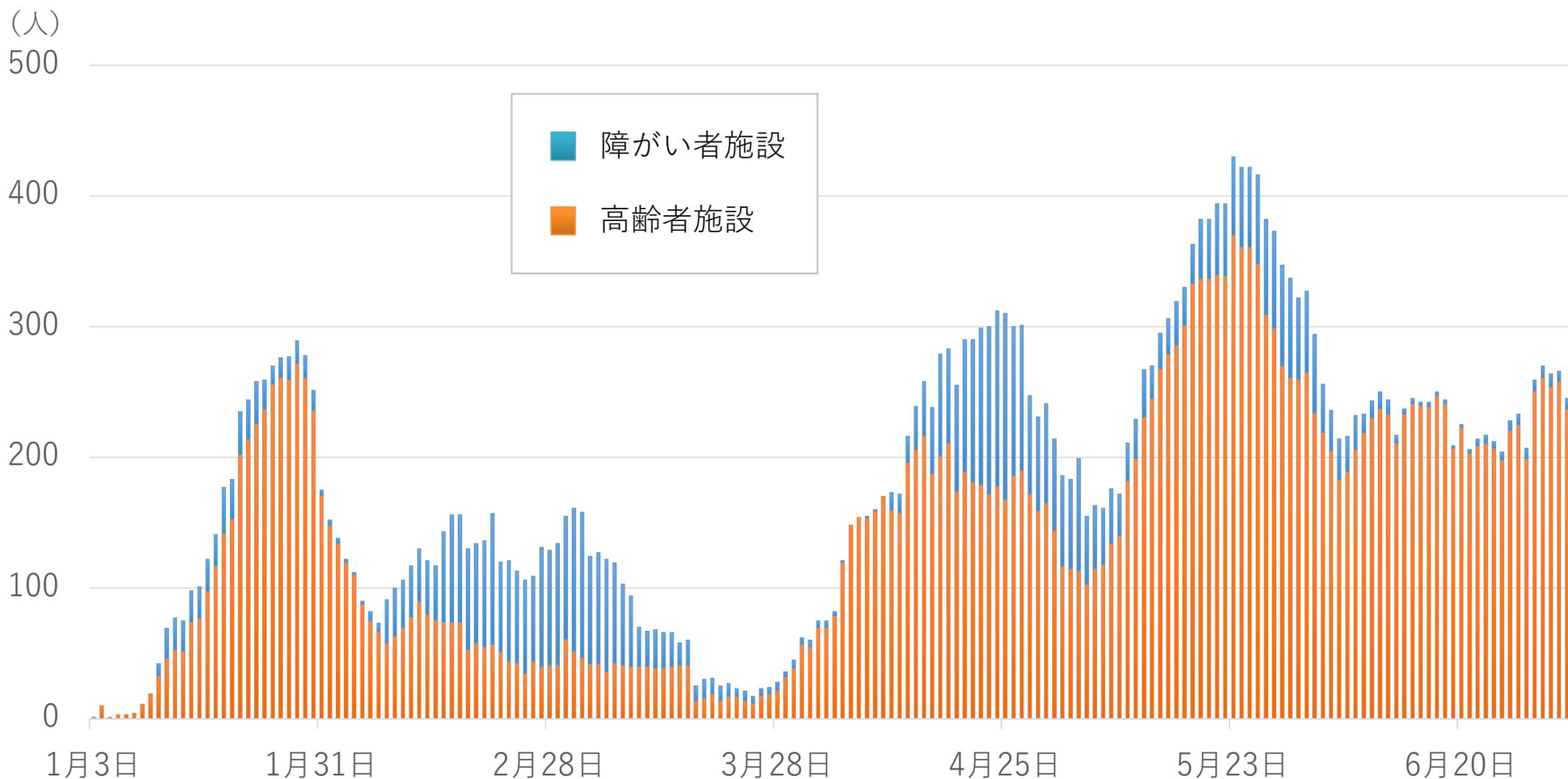


図9 市町村別に見る70歳以上の4回目ワクチン接種率

2022年7月3日時点

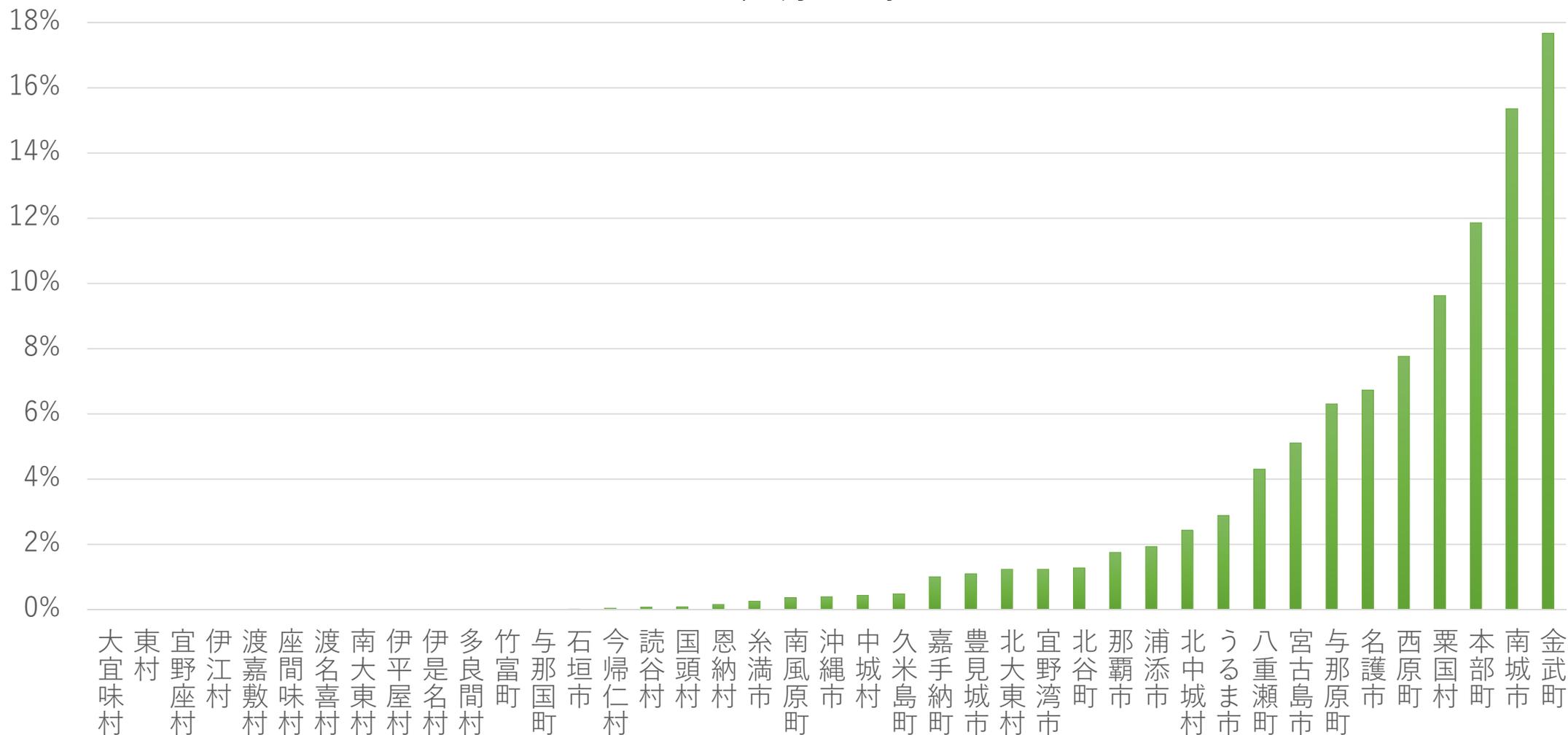


図10 沖縄県における救急搬送件数の推移

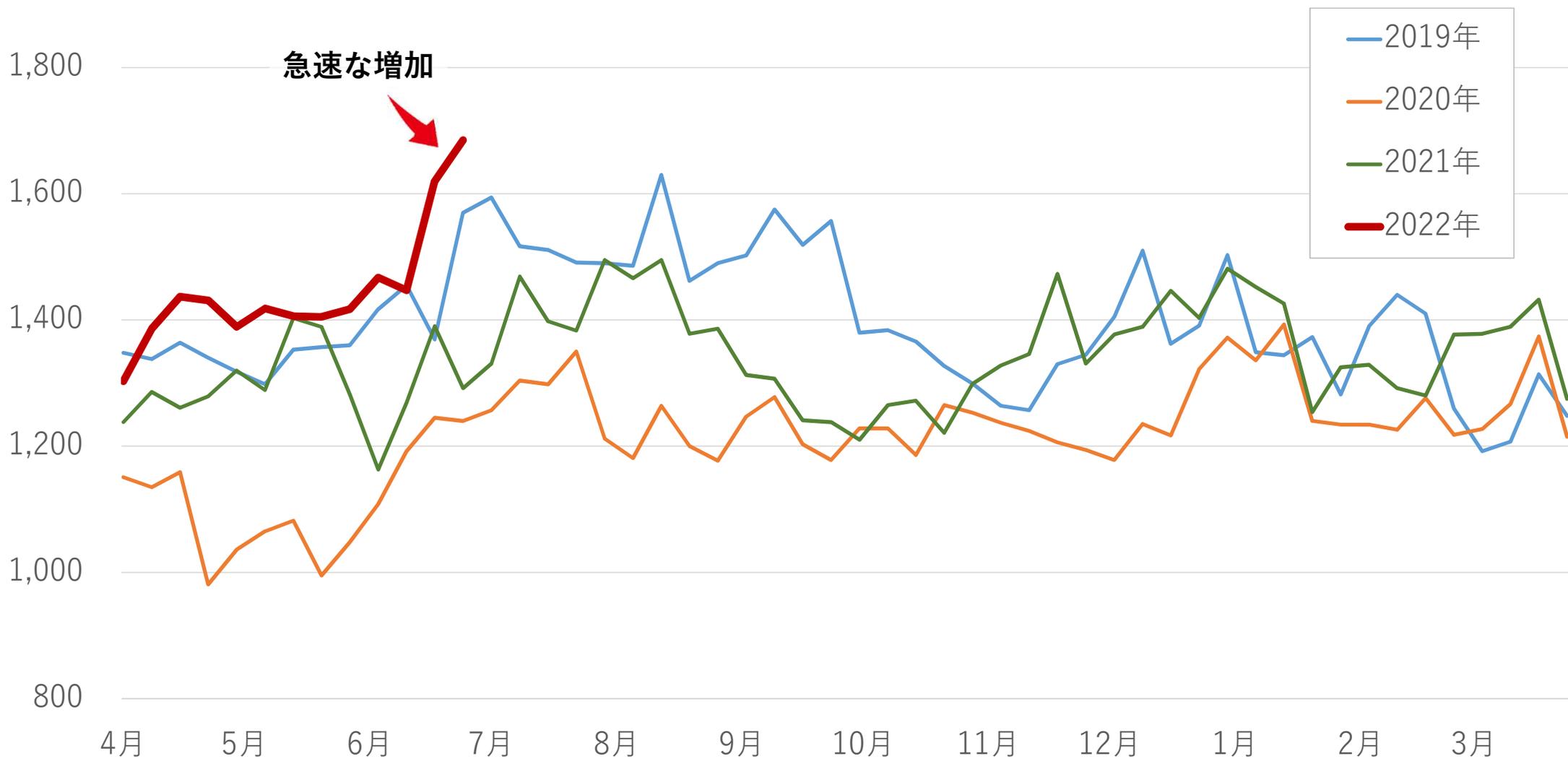


図11 今後1週間（7月4日-10日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

実効再生産数	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（7月10日時点）		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	4,584	9,232	18,591	294	367	485
宮古圏域	167	337	679	4	6	8
八重山圏域	266	536	1,079	13	16	21
合計	5,018	10,105	20,349	312	388	515